

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東北工業大学
設置者名	学校法人東北工業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
工学部	電気電子工学科※4	夜・通信	2	3	8	13	13	
	情報通信工学科※5	夜・通信			8	13		
	都市マネジメント学科※4	夜・通信			8	13		
	環境応用化学科※4	夜・通信			8	13		
工学部	建築学科※1	夜・通信	2	3	9	13	13	
	環境エネルギー学科※1	夜・通信			8	13		
工学部	電気電子工学課程※5	夜・通信	2		11	13	13	
	情報通信工学課程※5	夜・通信			12	14		
	都市工学課程※5	夜・通信			12	14		
	環境応用化学課程※5	夜・通信			12	14		
建築学部	建築学科	夜・通信			12	14		
ライフデザイン学部	産業デザイン学科※2	夜・通信	2	1	10	13	13	
	生活デザイン学科※3	夜・通信			12	15		
	経営デザイン学科※6	夜・通信			10	13		
(備考) ※1 工学部建築学科、環境エネルギー学科は、2020年度より募集停止 ※2 ライフデザイン学部産業デザイン学科は、2020年度よりクリエイティブデザイン学科から名称変更								

※3 ライフデザイン学部生活デザイン学科は、2020 年度より安全安心生活デザイン学科から名称変更

※4 工学部電気電子工学科、情報通信工学科、都市マネジメント学科、環境応用化学科は、2025 年度より募集停止

※5 工学部電気電子工学課程、情報通信工学課程、都市工学課程、環境応用工学課程は、2025 年 4 月開設

※6 ライフデザイン学科経営コミュニケーション学科は 2025 年度より経営デザイン学科から名称変更

- ・ 2020 年度より、新教育課程へ変更
- ・ 2021 年度より、新教育課程へ変更
- ・ 2023 年度より、新教育課程へ変更
- ・ 2025 年度より、新教育課程へ変更

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

公表方法：東北工業大学 Web サイト

○全体

HOME > 大学概要 > 情報公開 > 公表データ >

教員組織ならびに各職員に関する情報

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/>

○工学部

HOME > 学部・大学院 > 工学部

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/eng/>

○建築学部

HOME > 学部・大学院 > 建築学部

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/arc/>

○ライフデザイン学部

HOME > 学部・大学院 > ライフデザイン学部

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/life/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) ※該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北工業大学
設置者名	学校法人東北工業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

◎本法人 Web サイトで公表 本法人 Web サイト > 情報公開 > 役員名簿等 > 学校法人東北工業大学役員等名簿 (https://www.tohtech.ac.jp/corporation/officer/)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	【現職】 株式会社代表取締役	2025.6.13 ～ R11 年度定 時評議員会 終結時	第三者の視点での 学校経営のチェッ ク機能
非常勤	【現職】 株式会社代表取締役社 長		
非常勤	【現職】 法律事務所会長		
非常勤	【現職】 株式会社取締役会長		
非常勤	【前職】 株式会社取締役監査等 委員		
(備考) 2026年5月1日時点			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北工業大学
設置者名	学校法人東北工業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)作成については、毎年、教務委員会においてシラバス作成上の留意点を確認しており、承認された資料を基に全授業担当教員へ周知を図り作成依頼を行っています。留意点の具体的な内容としては、授業の単位数・開講期等や授業形態などの基本情報をはじめ、授業の達成目標やミニマムリクワイアメント、授業概要の記載方法、アクティブ・ラーニングや成績評価方法・基準などについての作成方法を示したものです。</p> <p>また、記載項目や内容の適切性を確認するためのチェック項目を定め、各学科の教務委員によるシラバス第三者チェック行い、報告を求めています。(各回の授業計画内容および具体的な授業外学習(予習・復習)の内容が明記されているか、成績評価方法の記載内容は適切か等)</p> <p>公表については、学内向けの本学ポータルサイトおよび本学ホームページよりシラバス情報を広く閲覧できるよう設定しています。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>公表方法：東北工業大学 Web サイト HOME > 大学概要 > 情報公開 > 公表データ > 教育課程・学修の成果に係る評価及び卒業(修了)の認定に関する情報 https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/ ※その他学内のポータルサイト及び教務システムに掲載</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

各授業科目の単位の認定は、当該授業科目を履修した学生に対し、原則として試験によって行う。

各授業科目の試験成績は、100点をもって最高とし、60点以上を合格としているが、病気その他やむを得ない事由により定期試験を欠席した者に対し、追試験を行うことがある。また、厳格な成績評価を実施するため、「東北工業大学成績評価のガイドライン」を定め、ポータルサイトへの掲載により全教員・学生に周知し、運用している。具体的には、「同一科目＝同一内容の徹底」や「学科・センターにおける評価基準についての共通認識の形成」などを基本原則とした成績評価を実施すること、また、GPAを活用した学修指導の実施などを定め、これを徹底している。

加えて、シラバスでは各授業科目で授業の達成目標と成績評価方法・基準を明記し（Webサイトおよびポータルサイトへの掲載により、全教職員・学生が閲覧可能）、あらかじめ設定した評価基準を満たした履修学生に対して、単位を付与している。

また、学生が身につけるべき学士力を各授業科目で評価するとともに、その総合評価として「卒業研修（卒業制作）」の組織的・客観的評価により卒業認定を行っている。

※（参考）東北工業大学学則（第14条～第16条の2）

https://www.tohtech.ac.jp/outline/information/pdf/gakusoku_gakubuR7.04.pdf

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPAの算出方法およびGPAによる学修指導の基準を定め、学生便覧に掲載している。

学生便覧は大学Webサイト及び学内ポータルサイトに掲載し公表している。

GPAは以下の評価区分及び算出式で求められる。

成績	Grade	Grade Point
90～100点	A	4.00
80～89点	B	3.00
70～79点	C	2.00
60～69点	D	1.00
不可・不適	F	0.00

$$GPA = \frac{(4 \times A \text{の修得単位数}) + (3 \times B \text{の修得単位数}) + (2 \times C \text{の修得単位数}) + (1 \times D \text{の修得単位数})}{\text{履修登録科目の単位数 (F (不可・不適) の科目の単位数を含む) の合計}}$$

※小数第3位を四捨五入して第2位まで表示する。

上記で定められる算出式で各学生のGPAを算出し、成績発表とともに学生に公開するほか、学修成果可視化システムの項目として提示し、学生は自らのGPAを常時確認できる。また、教職員も各学生のGPAを学修成果可視化システムによって常時確認でき、学科内順位や教養・専門科目毎の平均値等と併せ、学修指導に利用している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

○学生便覧 (p. 17-18)
<https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業に要する最低修得単位数を 124 単位と定めており、本学の学生が身につけるべき「共通学士力」である「創造力」、「統合力」(1. 情報収集・分析力、2. 論理的思考力、3. 課題発見・解決力、4. コミュニケーション力、5. セルフマネジメント力)を課程・学科毎に評価するとともに、その集大成である「卒業研修(卒業制作)」の組織的・客観的評価及び教務委員会→代議員会→教授会の審議を経て卒業認定を行う。

<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>公表方法：東北工業大学 Web サイト</p> <p>①学位授与方針（全学） https://www.tohtech.ac.jp/outline/philosophy/</p> <p>②学位授与方針（各学科）</p> <p>○工学部</p> <p>電気電子工学課程 https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/elc/ 電気電子工学科 https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/elc/</p> <p>情報通信工学課程 https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/ice/ 情報通信工学科 https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/ice/</p> <p>都市工学課程 https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/civ/ 都市マネジメント学科 https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/civ/</p> <p>環境応用化学課程 https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/ace/ 環境応用化学科 https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/ace/</p> <p>○建築学部</p> <p>建築学科 https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/arc/arch/</p> <p>○ライフデザイン学部</p> <p>産業デザイン学科 https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/life/id/ 生活デザイン学科 https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/life/sl/ 経営デザイン学科 https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/life/md/</p>
------------------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東北工業大学
設置者名	学校法人東北工業大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	2025(令和7)年度 貸借対照表 公表方法：東北工業大学ホームページ TOP > 情報公開 > 財務情報 > 2025(令和7)年度 計算書類 https://www.tohtech.ac.jp/corporation/finance/
収支計算書又は損益計算書	2025(令和7)年度 貸借対照表 公表方法：東北工業大学ホームページ TOP > 情報公開 > 財務情報 > 2025(令和7)年度 計算書類 https://www.tohtech.ac.jp/corporation/finance/
財産目録	2025(令和7)年度 貸借対照表 公表方法：東北工業大学ホームページ TOP > 情報公開 > 財務情報 > 2025(令和7)年度 計算書類 https://www.tohtech.ac.jp/corporation/finance/
事業報告書	2025(令和7)年度 貸借対照表 公表方法：東北工業大学ホームページ TOP > 情報公開 > 財務情報 > 2025(令和7)年度 計算書類 https://www.tohtech.ac.jp/corporation/finance/
監事による監査報告(書)	2025(令和7)年度 貸借対照表 公表方法：東北工業大学ホームページ TOP > 情報公開 > 財務情報 > 2025(令和7)年度 計算書類 https://www.tohtech.ac.jp/corporation/finance/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称：令和8年度事業計画 対象年度：2026年度)
公表方法：東北工業大学ホームページ TOP > 情報公開 > 財務情報 > 2026(令和8)年度事業計画 https://www.tohtech.ac.jp/corporation/finance/
中長期計画(名称：TOHECH2028 対象年度：2024年度～2028年度)
公表方法：公表方法：東北工業大学ホームページ TOP > 中期計画「TOHTECH 2028」 https://www.tohtech.ac.jp/corporation/tohtech2028/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：東北工業大学ホームページ
TOP > 大学概要 > 情報公開 > 自己点検評価 > 令和6(2024)年度
<https://www.tohtech.ac.jp/outline/evaluation/pdf/R6kadai.pdf>
刊行物名：「令和6年度東北工業大学の現状と課題 自己点検・評価報告書」

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：東北工業大学ホームページ及び日本高等教育評価機構ホームページ
TOP > 大学概要 > 情報公開 > 大学認証評価
本学 URL：https://www.tohtech.ac.jp/outline/juaa_25/
機構 URL：
https://www.jiheer.or.jp/kikanbetsu/2020/27tohoku_institute_of_technology.pdf
刊行物名：「令和2年度 大学機関別認証評価 評価報告書」

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部、建築学部、ライフデザイン学部
教育研究上の目的（公表方法：東北工業大学 Web サイト）
（概要） HOME > 大学概要 > 情報公開 > 大学学則・大学院学則 https://www.tohtech.ac.jp/outline/information/
○大学の目的（学則第 2 条） 本学は、建学の精神に則り、学術を中心とした広い知識を授けると共に、工学、建築学、及びライフデザイン学を教授研究し、人間性と調和した科学技術を展開させうる人材の育成を目的とする。
○工学部の目的（学則第 3 条第 2 項第 1 号） 工学部は、人間・環境を重視した工学を創造し、社会との真の融合を目指すことにより、地域に根ざした文化と産業の発展に寄与することを目的とする。
○建築学部の目的（学則第 3 条第 3 項第 1 号） 建築学部は、地域環境と人間社会を豊かにする建築学を創造し、建物をつくる知識や技術、建物を適切に計画するための知識や技術、建物を使いこなすための知識や技術の習得を目指すことにより、持続可能な社会と環境の構築に寄与することを目的とする。
○ライフデザイン学部の目的（学則第 3 条第 4 項第 1 号） ライフデザイン学部は、豊かな人間生活を指向したライフデザイン学を創造し、社会との真の融合を目指すことにより、地域に根ざした文化と産業の発達に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：）
（概要） HOME > 大学概要 > 建学の精神・教育理念 https://www.tohtech.ac.jp/outline/philosophy/
卒業に要する最低修得単位数を 124 単位と定めており、本学の学生が身につけるべき「共通学士力」である「創造力」、「統合力」（1. 情報収集・分析力、2. 論理的思考力、3. 課題発見・解決力、4. コミュニケーション力、5. セルフマネジメント力）を課程・学科毎に評価するとともに、その集大成である「卒業研修（卒業制作）」の組織的・客観的評価及び教務委員会→代議員会→教授会の審議を経て卒業認定を行う。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：）
（概要） HOME > 大学概要 > 建学の精神・教育理念 https://www.tohtech.ac.jp/outline/philosophy/index.html
建学の精神および大学の理念に基づき、「専門家として必要な素地、調和のとれた人格、優れた創造力と実行力を備えた人材の育成」を教育方針に定め、伝統と文化を有する東北の中心地の特徴を重視し、その特性を生かし、かつそれを普遍化した学問を教育・研究することにより、社会が真に必要とする優れた人材を育成することとしている。また、学生が身につけるべき「共通学士力」として「創造力」・「統合力」及び以下 5 つの能力を定めている。
1) 情報収集・分析力

- 2) 論理的思考力
- 3) 課題発見・解決力
- 4) コミュニケーション力
- 5) セルフマネジメント力

これらの学士力を身につけさせるため、教育課程表の編成・実施の方針を以下の通り定めている。

1. 幅広い知識と理解力を養うとともに、共通学士力と専門学士力を身に付けさせるため、体系的な教養教育と専門教育のカリキュラムを編成する。
2. 学士力の向上を意識して学修させるため、各科目と学士力の対応関係を明示するとともに、科目間の繋がりを明確にしたモデルカリキュラムを示す。
3. 学士力の達成度を常に把握し、個々の学生に応じたきめ細かな教育を施すため、初年次から卒業までの継続的な少人数教育並びに個別的学修支援を行う。
4. 科目ごとの成績評価と、身に付けるべき学士力との対応関係に基づき、学修成果（学士力到達度）を明示する。

○工学部各課程・学科の教育課程表の編成・実施の方針

電気電子工学課程 (<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/elc/>)

電気電子工学分野のハードウェアとソフトウェアの専門性を備えた人材育成を目標に、教育・研究指導を行う。

1. 個の尊重と実践教育を方針として、基礎科目では習熟度別学修に取組み、また演習・実験・卒業研修等の能動的学びにより専門知識と技術を実学として教育する。
2. 1, 2年次では、一般（基礎）、電気電子工学（基礎）、情報（基礎）から構成される専門基礎科目を設定する。
3. 3, 4年次では、一般（応用）、電子機械・ロボット、医工学・バイオ、光・情報デバイスの分野に関する電気電子工学（応用）、情報（応用）から構成される専門応用科目を設定する。
4. 卒業研修により、課題発見・解決能力とプレゼンテーション能力を修得するように指導する。

電気電子工学科

(<https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/elc/>) ※1

電気電子工学分野のハードウェアとソフトウェアの専門性を備えた人材育成を目標に、教育・研究指導を行う。

1. 個の尊重と実践教育を方針として、基礎科目では習熟度別学修に取組み、また演習・実験・卒業研修等の能動的学びにより専門知識と技術を実学として教育する。
2. 1, 2年次では、一般（基礎）、電気電子工学（基礎）、情報（基礎）から構成される専門基礎科目を設定する。
3. 3, 4年次では、一般（応用）、電子機械・ロボット、医工学・バイオ、光・情報デバイスの分野に関する電気電子工学（応用）、情報（応用）から構成される専門応用科目を設定する。
4. 卒業研修により、課題発見・解決能力とプレゼンテーション能力を修得するように指導する。

情報通信工学課程 (<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/ice/>)

・情報処理技術者、通信技術者を育成するため、情報処理技術と通信技術、これらを融合した技術を体系的に学べるようカリキュラムを編成する。

・1年次では情報処理技術と通信技術の両方の基礎となる科目を配置し、専門を学ぶ力を付けさせる。

・2年次から3年次では、情報処理技術と通信技術、および両者の融合分野の専門科目を配置し、高度な専門知識・技術を学べるようにする。

・4年次では卒業研修科目を配置し、勉学の集大成としての卒業研究を通して技術者とし

て必要な能力を身に付けさせる。

情報通信工学科

(<https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/ice/>) ※1

- ・情報処理技術者、通信技術者を育成するため、情報処理技術と通信技術、これらを融合した技術を体系的に学べるようカリキュラムを編成する。
- ・1年次では情報処理技術と通信技術の両方の基礎となる科目を配置し、専門を学ぶ力を付けさせる。
- ・2年次から3年次では、情報処理技術と通信技術、および両者の融合分野の専門科目を配置し、高度な専門知識・技術を学べるようにする。
- ・4年次では卒業研修科目を配置し、勉学の集大成としての卒業研究を通して技術者として必要な能力を身に付けさせる。また、通信コースと情報コースのモデルカリキュラムを提供し、深く専門を学べるよう配慮する。

都市工学課程 (<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/civ/>)

- ・シラバスでは、各科目のカリキュラム中での位置づけを、学習内容の関連性の流れを主眼とした「履修の流れ」として図示する。
- ・さらに、シラバスには、各科目の授業内容・方法(授業の概要、授業計画など)、到達目標(達成目標)、成績の評価方法・評価基準はもちろんのこと、学習・教育到達目標と学習・教育到達目標(A)～(F)との関係の強さを「%」表示で示す。

都市マネジメント学科

(<https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/civ/>) ※1

- ・学習・教育到達目標(A)～(F)を学生が達成できるように、授業科目を配置する。
- ・シラバスでは、各科目のカリキュラム中での位置づけを、学習内容の関連性の流れを主眼とした「履修の流れ」として図示する。
- ・さらに、シラバスには、各科目の授業内容・方法(授業の概要、授業計画など)、到達目標(達成目標)、成績の評価方法・評価基準はもちろんのこと、学習・教育到達目標と学習・教育到達目標(A)～(F)との関係の強さを「%」表示で示す。

環境応用化学課程 (<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/ace/>)

- ・応用化学と環境学の体系的な専門教育と技術者倫理など一般教養教育を基礎として、応用化学および環境保全技術者の育成を目標に教育・研究指導を行う。
- ・1年次に取り組む一般科目では専門の基礎知識としての工学・環境基礎、リテラシーの科目を設定する。
- ・2年次から3年次では、応用化学分野では化学の基礎から開発・製造技術、環境学分野では環境分析・調査技術などの専門科目を設定する。
- ・また演習および実験科目を設定し、講義と有機的に結合した高い専門性を持った知識と技術を習得できるようにする。
- ・3、4年次に取り組む卒業研修では、持続可能な社会を支える知識と問題発見能力・解決能力・コミュニケーション能力を持った人材を育成する。

環境応用化学科

(<https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/ace/>) ※1

- ・応用化学と環境学の体系的な専門教育と技術者倫理など一般教養教育を基礎として、応用化学および環境保全技術者の育成を目標に教育・研究指導を行う。
- ・1年次に取り組む一般科目では専門の基礎知識としての工学・環境基礎、リテラシーの科目を設定する。
- ・2年次から3年次では、応用化学分野では化学の基礎から開発・製造技術、環境学分野では環境分析・調査技術などの専門科目を設定する。
- ・また演習および実験科目を設定し、講義と有機的に結合した高い専門性を持った知識と

技術を習得するようにする。

・3、4年次に取り組む卒業研修では、持続可能な社会を支える知識と問題発見能力・解決能力・コミュニケーション能力を持った人材を育成する。

○建築学部建築学科の教育課程表の編成・実施の方針

(<https://www.tohtech.ac.jp/dept/arc/arch/>)

・建築技術者に必要とされる基礎的な知識と技能（建築士受験指定科目）は必修科目として確実に修得する。

・エンジニアリング系科目では主に理論的思考力や問題発見/解決・判断能力などを、デザイン系科目ではコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、企画力などを養う。

・1年次では建築学に対する理解を深め関心を高める導入教育、

・1～2年次では建築学主要領域の基礎教育、

・3～4年次では各領域・分野の知識と技術を統合する教育を行う。

・講義、演習、実験、課外活動などを有機的に連携させ、「知識・技能」を「経験・体験」に置換することで各分野の統合と協働のもとに成り立つ建築学の姿と、社会の中での建築を意識できるようにする。

○ライフデザイン学部各学科の教育課程表の編成・実施の方針

産業デザイン学科 (<https://www.tohtech.ac.jp/dept/life/id/>)

学位授与の方針に対応した以下①～④で構成する。

<1年次～2年次前期>

①理論・思想を学ぶ。

・現代社会におけるデザインの意義・役割・これからのデザインの課題を考える視点・デザインに関連する幅広い分野の知識

②手法・技術を学ぶ。

・アイデアを発想するシステマティックな手法・的確に他者へ伝えるアナログ・デジタル技術・より高度なデザイン技術

<2年次後期～4年次>

③応用・統合を学ぶ。

・一連のデザインプロセス・論理的なプレゼンテーション・グループワーク

④社会・コミュニケーションを学ぶ。

・実際の企業・組織活動とデザインの役割・組織活動で貢献できるコミュニケーション能力・自分の進路の検討、そこで必要な考え方、スキル

生活デザイン学科 (<http://www.tohtech.ac.jp/dept/life/sl/>)

・人間生活と地域社会の関係、その課題や可能性について探求、共創することを共通テーマとし、工学・建築学をベースにしながら、社会学・福祉学などの横断的内容を含めた教育・研究を行う。

・くらしの安全安心と共助コミュニティをめざす「福祉まちづくり系」、ならびに住まいの改善や価値創出をめざす「住環境デザイン系」を特色ある科目群として配置する。

- ・2系の共通領域として、地域・社会の課題発見と価値創出をめざす「地域計画系」の科目群を配置する。
- ・1年次から2年次前期までは、この3科目群の基礎を学修する。
- ・2年次後期からは、特色ある2系のいずれかに軸足を置いて専門的な学修を行うとともに、3年次後期から4年次にかけて、具体的な生活・地域の課題をテーマとしたプロジェクトベースの研修科目を通して総合力を養う。
- ・付記：建築士などのライセンス取得に必要な設計・造形系科目群と、キャリア形成科目群を、上記科目群との関連性を保持するように並列配置する。

経営デザイン学科

(<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/life/md/index.html>)

- ・経済学、経営学、会計学を中心とした幅広い学問領域を学ぶことにより、地域の課題を解決する能力を身につけた職業人を育成する。
- ・データ処理やデジタル技術を活用して経営組織体を体系的に改善する、DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進しAI(人工知能)を利活用する職業人を育成する。
- ・学修成果の集大成として卒業研修を行う。
- ・「副専攻制」を活用して、ライフデザイン学部3学科の横断的な教育機会を提供し、学生の複合的な学びを支援する。
- ・付記：建築士などのライセンス取得に必要な設計・造形系科目群と、キャリア形成科目群を、上記科目群との関連性を保持するように並列配置する。

※2025年度より学生募集停止

入学者の受入れに関する方針（公表方法：）

（概要）

HOME > 大学概要 > 建学の精神・教育理念

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/philosophy/>

東北工業大学は、「建学の精神」（わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成する）に基づき、「大学の理念」（人間・環境を重視した、豊かな生活のための学問を創造し、それらの統合を目指す教育・研究により、持続可能な社会の発展に寄与する）の実現を目指し、「専門家として必要な素地、調和のとれた人格、優れた創造力と実行力を備えた人材の育成」を「教育方針」に掲げている。

本学が求める人物像を、以下に示す。

【求める人物像】

1. 本学において、学修および研究を行うことを強く希望し、専門家として必要な素地、調和のとれた人格、優れた創造力と実行力を身につけ、自己実現を果たすことを強く望んでいる者
 2. 本学の学問分野に強い興味関心を持ち、将来、この学問の学びを通じて得た、自らの専門知識と技術で、持続可能な社会の発展に寄与しようとする気概を強く持っている者
- 本学の人材育成の目標達成のため、入学後の成長が期待される人材として、高等学校等において身につけておくべき資質・能力を、以下に示す。

【入学までに身につけておくべき資質・能力】

1. 本学で学ぶ上での基本となる基礎学力（数学・理科・国語・英語など、高等学校で学ぶ全ての教科・科目）と総合的な判断力
2. 専門分野に秀でた能力
3. 意欲的で明確な目的意識
4. 多様な活動実績や一芸に秀でた能力

各選抜において、上記【入学までに身につけておくべき資質・能力】の1～4のうち、いずれかを評価して入学生を受け入れる。

○工学部各課程・学科の入学者受入の方針

電気電子工学課程(<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/elc/>)

本学で定める入学条件に加え、以下の条件を満たす人の入学を強く希望する。

1. 電気電子工学に興味を持ち、この分野に関して自ら学び・自ら考え、さらに新しいことに自ら挑もうとする強い意志のある人
2. 今日の高度情報化社会における電気電子、医療、電力、自動車産業の分野で活躍し、自らの専門知識と技術で社会の役に立ちたいと考えている積極性のある人

電気電子工学科

(<https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/elc/>) ※1

本学で定める入学条件に加え、以下の条件を満たす人の入学を強く希望する。

1. 電気電子工学に興味を持ち、この分野に関して自ら学び・自ら考え、さらに新しいことに自ら挑もうとする強い意志のある人
2. 今日の高度情報化社会における電気電子、医療、電力、自動車産業の分野で活躍し、自らの専門知識と技術で社会の役に立ちたいと考えている積極性のある人

情報通信工学課程 (<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/ice/>)

高度情報化社会を支えている情報通信分野に関心を抱き、将来この分野で活躍したいとの意欲と目的を持ち、基礎学力を身に付け総合的な判断力を有する者、あるいは情報通信分野に秀でた能力を有する者、多様な活動実績等を有する者を求める。

情報通信工学科

(<https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/ice/>) ※1

高度情報化社会を支えている情報通信分野に関心を抱き、将来この分野で活躍したいとの意欲と目的を持ち、基礎学力を身に付け総合的な判断力を有する者、あるいは情報通信分野に秀でた能力を有する者、多様な活動実績等を有する者を求める。

都市工学課程 (<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/civ/>)

社会基盤の計画と建設および維持管理に関心をもち、土木分野におけるリーダーまたはプロフェッショナルとして、地域の歴史や風土を生かした未来をデザインし、心豊かに暮らせる個性的で良質な地域社会を創り出そうとする、その意欲と能力のある人を求める。

都市マネジメント学科 (<https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/civ/>) ※1

社会基盤の計画と建設および維持管理に関心をもち、土木分野におけるリーダーまたはプロフェッショナルとして、地域の歴史や風土を生かした未来をデザインし、心豊かに暮らせる個性的で良質な地域社会を創り出そうとする、その意欲と能力のある人を求める。

環境応用化学課程 (<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/ace/>)

材料・素材開発などの応用化学やそれを工業化するための化学工学技術、化学物質による人体・生態系への影響評価と公害防止などの環境保全技術に関心をもち、基礎学力と高い倫理観を身に付け、持続可能な社会を実現していくための工学に根ざした専門能力を築き上げる意欲を持つ人を求める。

環境応用化学科

(<https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/ace/>) ※1

材料・素材開発などの応用化学やそれを工業化するための化学工学技術、化学物質による人体・生態系への影響評価と公害防止などの環境保全技術に関心をもち、基礎学力と高い倫理観を身に付け、持続可能な社会を実現していくための工学に根ざした専門能力を築き上げる意欲を持つ人を求める。

○建築学部建築学科の入学者の受入の方針 (<https://www.tohtech.ac.jp/dept/arc/arch/>)
・本学科の教育思念を理解した上で、私たちの身近にある暮らしや地域/国際社会における

事象に強い関心や興味を抱き、より豊かな暮らしと未来のための生活・地域環境づくりに創造的に、そして真摯に取り組む姿勢と、目標や夢、そして高い倫理観を持つ人を求める。
・将来、本学科で修得した知識と技能を活かして地域・社会で活躍する 建築技術者/設計者を目指して努力しようとする人を入学試験により選抜する。

○ライフデザイン学部各学科の入学者の受入れに関する方針

産業デザイン学科 (<https://www.tohtech.ac.jp/dept/life/id/>)

将来、デザイナーや各種クリエイターとして活躍したい、あるいはデザインの学びを様々な仕事に活かしたいと考えている積極的な意欲のある学生を求める。

生活デザイン学科 (<http://www.tohtech.ac.jp/dept/life/sl/>)

本学科の教育理念を理解した上で、以下の事柄に関して強い関心と意欲のある学生の入学を強く希望する。

1. 住まいと地域における心身の健康と安全安心に関心を持つこと。
2. 健康で快適そして安全安心な生活環境を、総合的にデザインできるようになりたいという意欲を持っていること。
3. 積極的に他人と関わりあいながら、自分を高め成長する意欲があること。

経営デザイン学科 (<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/life/md/>)

・経済学、経営学、会計学およびそれらをつなぐ技術としての情報通信技術（ICT）を、横断的に学ぶ意欲を持っていること。

・経営組織マネジメントの分野に関して、自ら学び、自ら考え、日常生活で生じる社会現象に興味・関心を持っていること。

・地域社会の持続的な発展のために、コミュニケーション能力を発揮して、地域社会の課題解決に取り組めること。

※1 2025 年度より学生募集停止

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：公表方法：東北工業大学 Web サイト

HOME > 大学概要 > 組織図

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
工学部	－	38人	10人	1人	2人	0人	51人
建築学部		10人	4人	1人	1人	0人	17人
ライフデザイン学部		16人	10人	6人	0人	0人	32人
教養部（一般教育）		8人	2人	1人	0人	0人	11人
その他	－	0人	1人	0人	0人	0人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		154人					154人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>教職員におけるFD推進のため、令和7年度は下記の研修会を実施した。</p> <p>※FSD研修会：教育職員および事務職員対象研修会</p> <p>【第1回 FSD研修会】 開催日：令和7年5月29日（木）～30日（金） テーマ：留年・休退学抑制施策に関する意見交換会</p> <p>【第2回 FSD研修会】 開催日：令和7年10月24日（金） テーマ：教育課程レベルのアセスメントにおける卒業研修ルーブリック評価</p> <p>【第3回 FSD研修会】 開催日：令和8年3月17日（火） テーマ：理工系大学におけるキャリア教育の今とこれから</p> <p>【第4回 FSD研修会】 開催日：8年3月23日（月） テーマ：事例に学ぶ教育改善令和 公表方法：東北工業大学 Web サイト HOME > 大学概要 > 情報公開 > FD・IR 活動情報 > FD 研修会 https://www.tohtech.ac.jp/outline/fd/</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	385人	379人	98.4%	1,540人	1,455人	94.5%	若干名	0人
建築学部	135人	174人	128.9%	540人	627人	116.1%	若干名	0人
ライフデザイン学部	240人	282人	117.5%	960人	1,123人	117.0%	若干名	0人
合計	760人	835人	109.9%	3,040人	3,205人	105.4%	若干名	0人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	363人 (100%)	25人 (6.9%)	333人 (91.7%)	5人 (1.4%)
建築学部	153人 (100%)	23人 (15.0%)	128人 (83.7%)	2人 (1.3%)
ライフデザイン学部	259人 (100%)	4人 (1.5%)	246人 (95.0%)	9人 (3.5%)
合計	775人 (100%)	52人 (6.7%)	707人 (91.2%)	16人 (2.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先：東北工業大学大学院				
就職先：東日本旅客鉄道株式会社、株式会社ユアテック等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	458人 (100%)	309人 (67.5%)	63人 (13.7%)	82人 (17.9%)	4人 (0.9%)
建築学部	161人 (100%)	148人 (91.9%)	5人 (3.1%)	8人 (5.0%)	人 (%)
ライフデザイン学部	288人 (100%)	246人 (85.4%)	23人 (8.0%)	19人 (6.6%)	人 (%)
合計	907人 (100%)	703人 (77.5%)	91人 (10.0%)	109人 (12.0%)	4人 (0.5%)
(備考) 工学部 (その他) 4名はライフデザイン学部へ転学部し、現在も在籍中					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業計画書(シラバス)作成については、毎年、教務委員会においてシラバス作成上の留意点を確認しており、承認された資料を基に全授業担当教員へ周知を図り作成依頼を行っています。留意点の具体的内容としては、授業の単位数・開講期等や授業形態などの基本情報をはじめ、授業の達成目標やミニマムリクワイアメント、授業概要の記載方法、アクティブ・ラーニングや成績評価方法・基準などについての作成方法を示したものです。また、記載項目や内容の適切性を確認するためのチェック項目を定め、各学科の教務委員によるシラバス第三者チェックを行い、報告を求めています。(各回の授業計画内容および具体的な授業外学習(予習・復習)の内容が明記されているか、成績評価方法の記載内容は適切か等)

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各授業科目の単位の認定は、当該授業科目を履修した学生に対し、原則として試験によって行う。各授業科目の試験成績は、100点をもって最高とし、60点以上を合格としているが、病気その他やむを得ない事由により定期試験を欠席した者に対し、追試験を行うことがある。また、厳格な成績評価を実施するため、教員に対し「東北工業大学成績評価のガイドライン」を定めている。学生へは、ガイドラインの抜粋を学生便覧に掲載し、いずれもポータルサイトを通じ周知、運用している。ガイドラインに含まれる具体的な内容として、「同一科目＝同一内容の徹底」や「学科・センターにおける評価基準についての共通認識の形成」などを基本原則とした成績評価を実施すること、また、GPAを活用した学修指導の実施などを定め、これを徹底している。加えて、シラバスでは各授業科目で授業の達成目標とミニマムリクワイアメント、成績評価方法・基準を明記し(Webサイトおよびポータルサイトへの掲載により、全教職員・学生が閲覧可能)、あらかじめ設定した評価基準を満たした履修学生に対して、単位を付与している。また、学生が身につけるべき学士力を各授業科目で評価するとともに、その総合評価として「卒業研修(卒業制作)」の組織的・客観的評価により卒業認定を行っている。

※(参考)東北工業大学学則(第14条～第16条の2)

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/information/>

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	電気電子工学課程	1 2 4 単位	○・無	2 4 単位
	電気電子工学科	1 2 4 単位	○・無	2 4 単位
	情報通信工学課程	1 2 4 単位	○・無	2 4 単位
	情報通信工学科	1 2 4 単位	○・無	2 4 単位
	都市工学課程	1 2 4 単位	○・無	2 4 単位
	都市マネジメント学科	1 2 4 単位	○・無	2 4 単位
	環境応用化学課程	1 2 4 単位	○・無	2 4 単位
	環境応用化学科	1 2 4 単位	○・無	2 4 単位
建築学部	建築学科	1 2 4 単位	○・無	2 4 単位
ライフデザイン学部	産業デザイン学科	1 2 4 単位	○・無	2 4 単位
	生活デザイン学科	1 2 4 単位	○・無	2 4 単位
	経営デザイン学科	1 2 4 単位	○・無	2 4 単位

G P Aの活用状況 (任意記載事項)	公表方法：学生便覧 (P. 17) https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/condition_R7/
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：東北工業大学 Web サイト HOME > 大学概要 > 情報公開 > FD・IR 活動情報 > 授業評価アンケート https://www.tohtech.ac.jp/outline/fd/

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：東北工業大学 Web サイト</p> <p>①HOME > 大学概要 > キャンパス紹介 https://www.tohtech.ac.jp/outline/campusmap/</p> <p>②HOME > 大学概要 > 広報 > パンフレット・資料請求 https://www.tohtech.ac.jp/outline/public/pamphlet/</p> <p>③HOME > お問い合わせフォーム https://www.tohtech.ac.jp/info/contact/</p> <p>④その他の資料請求方法 入試広報課への電話連絡にて資料請求 (TEL : 022-305-3111)</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
工学部※2	電気電子工学課程	1,010,000円	250,000円	340,000円	その他(設備負担金・学生緒費分担金)
	情報通信工学課程				
	都市工学課程				
	環境応用化学課程				
工学部※3	電気電子工学科※3	980,000円	250,000円	320,000円(1年次) 330,000円(2年次) 340,000円(3年次) 350,000円(4年次)	
	情報通信工学科※3				
	建築学科※1				
	都市マネジメント学科 ※3				
	環境エネルギー学科※1				
環境応用化学科※3					
建築学部	建築学科	(2025年度入学生) 1,010,000円 (2024年度入学生まで)	250,000円	(2025年度以降入学生) 340,000円 (2024年度入学生まで) 320,000円(1年次) 330,000円(2年次) 340,000円(3年次) 350,000円(4年次)	
		980,000円			
ライフデザイン学部	産業デザイン学科	(2025年度入学生) 1,010,000円 (2024年度入学生まで)	250,000円	(2025年度以降入学生) 340,000円 (2024年度入学生まで) 320,000円(1年次) 330,000円(2年次) 340,000円(3年次) 350,000円(4年次)	
		980,000円			
	生活デザイン学科	(2025年度入学生) 770,000円 (2024年度入学生まで)	250,000円	(2025年度以降入学生) 310,000円 (2024年度入学生まで) 290,000円(1年次) 300,000円(2年次) 310,000円(3年次) 320,000円(4年次)	
	経営デザイン学科	(2025年度入学生) 710,000円 (2024年度入学生まで)	250,000円	(2025年度以降入学生) 240,000円 (2024年度入学生まで) 220,000円(1年次) 230,000円(2年次) 240,000円(3年次) 250,000円(4年次)	
		680,000円			

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
○学修支援センター 基礎学力の学修支援を目的とした「学修支援センター」において、入学後すぐに大学の授業に馴染めるよう入学前教育、一人ひとりの習熟度を把握し効果的で質の高い教育に繋げるために入学直後の学力診断テストおよび大学における授業への不安を抱えている学生の補習教育の一環として、正課外の基礎学力支援講座等の学修支援を実施している。
○技術支援センター 実験・実習・演習・制作等の技術支援を目的とした「技術支援センター」において、電気電子・情報通信・物理系、設計・製図系、材料・構造系、土質系、測量等野外調査系、水質・水理系、水理系、造形系、表現技法系等の実験・実習等の技術系の学びが円滑に行われるよ

う、学内の実験・研究・附属施設等で技術支援を実施している。

○教学アドバイザー制度

留年・休学・退学者の削減を目的とした「教学アドバイザー制度」は、教学アドバイザーによる多様な問題を抱える学生に対する個別指導を実施している。

○STACシステムの活用

学生に関する情報（成績、取得単位、授業出席状況、課外活動、学生生活、就職活動等）をデータベース化し、教職員が学生一人ひとりの状況に応じて適切な指導方法を模索できるツール。教職員が情報共有し、連携した指導を行っている。

○スチューデントパートナー制度

留年・休学・退学の削減を目的とした、「スチューデントパートナー制度」は、スチューデントパートナーによる出席不良な学生に対する個別支援を実施している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

1. 就職ガイダンス（1～3年生対象）

学部3年生を対象に、前期・後期の年2回実施。前期は就職概況や具体的な就職活動の方法・ポイントを解説し、後期は当該年度の採用活動の現状や企業の選考着眼点など、時期に応じた実践的な情報を提供している。

2. アセスメントテスト（1・4年生必須、2・3年生任意）

社会で求められる汎用的能力（ジェネリックスキル）を、知識活用・課題解決力である「リテラシー」と、行動特性である「コンピテンシー」の2つの側面から測定。測定結果を基に、学修・学生生活における目標設定や、就職活動に向けた客観的な自己分析を促している。

3. インターンシップ合同企業研究セミナー（1～3年生対象）

夏季休暇期間中にインターンシップやオープンカンパニーを実施する企業を学内に招致し、合同セミナーを開催。低学年次からの早期の業界・企業研究を促し、就業意識の醸成を図っている。

4. 宮城県内企業見学会（1～3年生対象）

地元の企業を実際に訪問する見学会を実施。地域の産業や企業の魅力を直接体感させることで、地元企業への理解を深め、地域定着への関心を高めている。

5. 就職試験対策講座（1～3年生対象）

民間企業の適性検査（SPI、玉手箱など）や公務員試験に対応した筆記試験対策の集中講座を開講。段階的な実力向上と試験突破に向けた基礎力を養っている。

6. 模擬面接（3年生対象）

外部の専門講師を招聘し、面接実技指導（集団・個人）を実施。実践的な立ち振る舞いや表現力を身に付けさせ、面接選考への対応力を強化している。

7. 合同企業研究セミナー（3年生対象）

本学の卒業生が在籍・活躍する企業を中心に約200社を一堂に集めて開催。業界・企業の概要、最新動向、将来性、求める人材像などについて直接説明を受け、学生と企業の相互理解および接点を強化している。

8. 就職活動早期準備講座（1・2年生対象）

1・2年生の低学年次を対象に、就職活動に向けた早期の心構えやキャリア意識の醸成を目的として開催。今後の学生生活の過ごし方や、将来の進路選択を見据えた準備を促している。

9. 業界・企業研究セミナー・OB/OG講演会（1～3年生対象）

各業界を代表する企業の人事担当者や、第一線で活躍するOB・OGを講師として招聘。現場のリアルな最新動向や具体的なアドバイスを聴講することで、視野の拡大と具体的な就職活動への動機付けを行っている。

10. 合同企業研究フェア（全学生対象）

本学と包括連携協定等を締結している企業を招聘して開催。各企業の具体的な取り

組みや独自の強みに直接触れることで、学生が業界構造の理解をさらに深め、視野を広げる機会としている。

11. 個別指導（全学生対象）

全課程・学科の教員による「進路指導員制」をはじめ、キャリアサポート課、長町校舎事務室、および対面・Web で利用可能な「就職活動なんでも相談室」が緊密に連携した個別相談体制を構築。また、「課程・学科就職支援委員会」を中心に、学生個々の希望や適性に応じたきめ細かな就職斡旋・指導を行っている。

12. 内定学生との交流会

内定を取得した4年生（先輩）から1～3年生の低学年・就職活動直前生へ、実体験に基づく活動のコツや成功のポイントを伝える交流会を開催。不安解消とモチベーションの向上を図っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

学生が『心身ともに健康な生活』を送れるよう、以下の取り組みを行っている。

1. 全学生対象に年1回の健康診断
2. 校医や保健師等による健康相談の実施
3. 学内での急病や不慮の事故による応急処置
4. 専任の専門カウンセラーによる学生生活に関わる心理相談や生活相談（障がい学生支援を含む）
5. 保護者からの相談
6. ピアサポーターの養成：学生同士の相互扶助を目的とした学生のグループ。カウンセラーから心理学や傾聴術などを学びながら、大学生活のカギとなる「居場所作り」のために様々な活動を行う。
7. 援助を必要とする学生のための教職員との連携
8. スチューデントパートナー（SP）との連携
連続で講義を欠席している学生に積極的に声をかける役割を担うSPと連携し、欠席の背景に心理的な悩みがある学生への相談を実施し、その後の対応についてもSPを通じて学科と連携する。
9. メンタルヘルス等の啓発活動の実施
 - a. カウンセラー通信の発行（年2回）
 - b. 学科の要請に応じてメンタルヘルスやハラスメントセミナーの実施
10. 外部専門機関との連携
病院、就労移行支援事業所、発達相談支援センター等、必要に応じて外部専門機関と連携している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：公表方法：東北工業大学 Web サイト

1-1. 大学の教育研究上の目的に関すること

- ・学則第2条、第3条

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/information/>

1-2. 大学教育法施行規則第六十五条の二第一項の規定により定める方針に関すること

- ・卒業又は修了の認定に関する方針
- ・教育課程の編成及び実施に関する方針
- ・入学者の受入れに関する方針

<http://www.tohtech.ac.jp/outline/philosophy/>

2. 教育研究上の基本組織に関すること

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/organization/>

3. 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・ 教員組織、教員の数

<http://www.tohtech.ac.jp/outline/number/index.html#teachers>

- ・ 各教員が有する学位及び業績

https://portal.gkm.tohtech.ac.jp/fdcommit/html/home_ja.html

4. 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・ 入学者の数

<http://www.tohtech.ac.jp/outline/number/index.html#student>

- ・ 収容定員

<http://www.tohtech.ac.jp/outline/number/index.html#syuyou>

- ・ 在学する学生の数

<http://www.tohtech.ac.jp/outline/number/index.html#student>

- ・ 卒業又は修了した者の数

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/career/>

- ・ 進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/career/>

5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

①授業科目、授業の方法及び内容（学生便覧、シラバス）

- ・ 工学部：<https://www.tohtech.ac.jp/dept/eng/>
- ・ 建築学部：<https://www.tohtech.ac.jp/dept/arc/>
- ・ ライフデザイン学部：<https://www.tohtech.ac.jp/dept/life/>

②年間の授業計画（学年暦）

<https://www.tohtech.ac.jp/campus/calendar/>

6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・ 学則第 14 条、17 条

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/information/>

- ・ 学位授与方針

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/philosophy/>

- ・ 各学部学科の学位授与方針、進級・卒業条件

①学位授与方針

○工学部

- ・ 電気電子工学課程

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/elc/>

- ・ 電気電子工学科※1

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/elc/>

- ・ 情報通信工学課程

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/ice/>

- ・ 情報通信工学科※1

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/ice/>

・都市工学課程

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/civ/>

・都市マネジメント学科※1

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/civ/>

・環境応用化学課程

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/ace/>

・環境環境応用化学科※1

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/old/undergraduate/eng/ace/>

○建築学部

・建築学科

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/arc/arch/>

○ライフデザイン学部

・産業デザイン学科

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/life/id/>

・生活デザイン学科

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/life/sl/>

・経営デザイン学科

<https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/life/md/>

②進級・卒業条件

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/>

7. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

・八木山キャンパス

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/yagiyama/>

・長町キャンパス

<http://www.tohtech.ac.jp/campus/nagamachi/>

・附属施設

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/institution/>

8. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

<https://www.tohtech.ac.jp/admission/outline/tuition/>

9. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

・学修支援

https://www.tohtech.ac.jp/dept/learning_support/

・経済支援

https://www.tohtech.ac.jp/admission/financial_support/

・就職支援

<https://www.tohtech.ac.jp/career/support/>

・心身の健康等に係る支援

<https://www.tohtech.ac.jp/campus/wellness/>

※1 2025年度より学生募集停止

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F104310100905
学校名 (〇〇大学 等)	東北工業大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 東北工業大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		916人（427）人	899人（416）人	947人（450）人
内 訳	第Ⅰ区分	201人	205人	
	（うち多子世帯）	37人	25人	
	第Ⅱ区分	116人	99人	
	（うち多子世帯）	27人	26人	
	第Ⅲ区分	91人	96人	
	（うち多子世帯）	21人	18人	
	第Ⅳ区分（理工農）	166人	152人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	114人	104人	
	区分外（多子世帯）	228人	243人	
家計急変による 支援対象者（年間）				5人（0）人
合計（年間）				952人（450）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	25人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	15人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	40人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	14人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	一人	人	人
GPA等が下位4分の1	115人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	115人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。